

新年のご挨拶



～EMによる国づくり～

NPO 法人地球環境共生ネットワーク
理事長 比嘉 照夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年平成 27 年は EM 活動の総括的な年となり、福島放射能汚染対策は完璧と言えるレベルに達し、東京湾はどこでも泳げるようきれいになりました。また各地域からも EM の社会化の成果が多数寄せられました。これも、ひとえに会員をはじめ皆様のたゆまざる真のボランティア活動のたまものであり、改めて感謝を申し上げます。

U-ネットの創設理念は「見返りを求めない真のボランティアが世の中を変える」であり、その行動指針は坂村真民の詩「あとから来る者のために」です。福島の放射能対策を中心に、環境問題のすべてに対応できる EM 技術のドキュメンタリー映画「蘇生」の締めくくりにも「あとから来る者のために」が感動的に語られています。

ボランティアの本質は、当事者の資質を高めることによって、はじめて実現します。本当に困った問題の解決を見返りなく解決するためには、困っている相手の立場に立った上で格段の知恵と勇気が求められます。このような実践こそが人間力を向上させ、世の中を善循環的な仕組みにする原動力となり、人生を充実させ納得する道筋と言えるものです。

EM 技術の社会化

昨年は映画「蘇生」の劇場公開によって、多数の人々が EM を知るようになりました。また、これまでも EM の社会化に取り組んでいる関係者に対しても、更なる踏み込んだ情報を提供することが出来ました。今年も機会あるごとに映画「蘇生」を積極的に活用し、関係者の資質向上に取り組み、種々の社会的モデルを充実させる活動を強化していきます。

EM による水環境の飛躍的改善

平成 27 年は、東京湾浄化達成の年となりました。今では東京湾は、どこでもきれいで泳げるようになり、江戸前の漁業は完全に復活しています。今後は、海の日活動を更に強化するとともに、長野県の諏訪湖と岡山県の子島湖の浄化プロジェクトを強化し、更に効率的な浄化法を確立し、東京湾や三河湾とともに世界的なモデルにしたいと考えています。

EM による放射能対策

映画「蘇生」でも明らかなように、EM による放射能対策は確たるものになりました。ベラルーシの国立放射線生物学研究所の再実験でも、EM による放射能の消失が再確認されました。また、EM 研究機構の実験でも同様な結果が得られています。

この実験法には、否定的な見解が入る余地はありません。EM を活用しているモデル事業団体は昨年の 47 から 50 に増え、新たに希望しているグループも増大しています。今年、その成果を更に広げ、福島を「うつくしま EM パラダイス」とするという公約を実現する活動を強化します。

その他、様々な深刻な社会問題に対しても、より積極的に取り組んでいくことにしています。今年も会員の皆様方が楽しく EM 力を向上させ、嬉しい年になることを期待しています。